

結城紬関連体験施設一覧

1 紬の里



結城市本町25 15
TEL 0296-32-8002

開館：9:30～17:00
(土日祝祭日10:00～)
休館：年中無休
(年末年始・お盆除く)
体験：織り、染め

2 つむぎの館



結城市大町12-2
TEL 0296-33-5633

開館：9:30～17:00
(入館16:30まで)
休館：火曜日
体験：織り、染め

3 郷土館



結城市浦町1116
TEL 0296-32-2121

開館：9:00～17:00
休館：不定休
体験：地機織り

4 手作り工房「里」



結城市浦町94
TEL 0296-33-3304

開館：9:30～17:00
休館：不定休
体験：染め

5 手緒工房いのせ



結城市繁昌塚7919
TEL 0296-33-2076

開館：9:00～16:00
休館：月曜日
体験：織り

6 結城市伝統工芸館



結城市小塙3018-1
TEL 0296-32-1108

開館：9:00～16:00
休館：水曜日
体験：地機織り



永年にわたり多くの先人による創意工夫が重ねられ、日本を代表する紬に成長しましたが、古代の技法は伝統工芸の灯りを絶やすことなく伝えられ、昭和31年に技術伝承者による【手つむぎ】【拵くり】【地機織り】の技術が「国重要無形文化財」に、昭和52年には「伝統的工芸品」に指定されました。

袖を通すごとに深まる味わいは、正しい手入れ法により、親から子へ、子から孫へ、「親子三代」に渡り受け継ぐことのできる紬です。

PRESERVING TRADITIONAL YUKI-TSUMUGI
The method used to produce Yuki-tsumugi was designated as a national intangible cultural property in 1956, and as a traditional craftwork in 1977. All the processes involved in its fabrication are done by hand-spinning pure silk into thread, dyeing, and weaving. Spinning pure silk into thread called "kasuri kukuri" can take more than one month to make the desired pattern, and up to a year to weave a piece of fabric. This dedication guarantees a high quality final product. There are two types of Yuki-tsumugi—the surface in one is slightly fluffy, and in the other, lightly crinkled. Nowadays, the former is more common.

結城市産業経済部商工観光課

〒307-8501 茨城県結城市大字結城1447
TEL 0296-32-1111 FAX 0296-32-7123

袖を通すごとに深まる味わい「親子三代」結城紬

本場結城紬

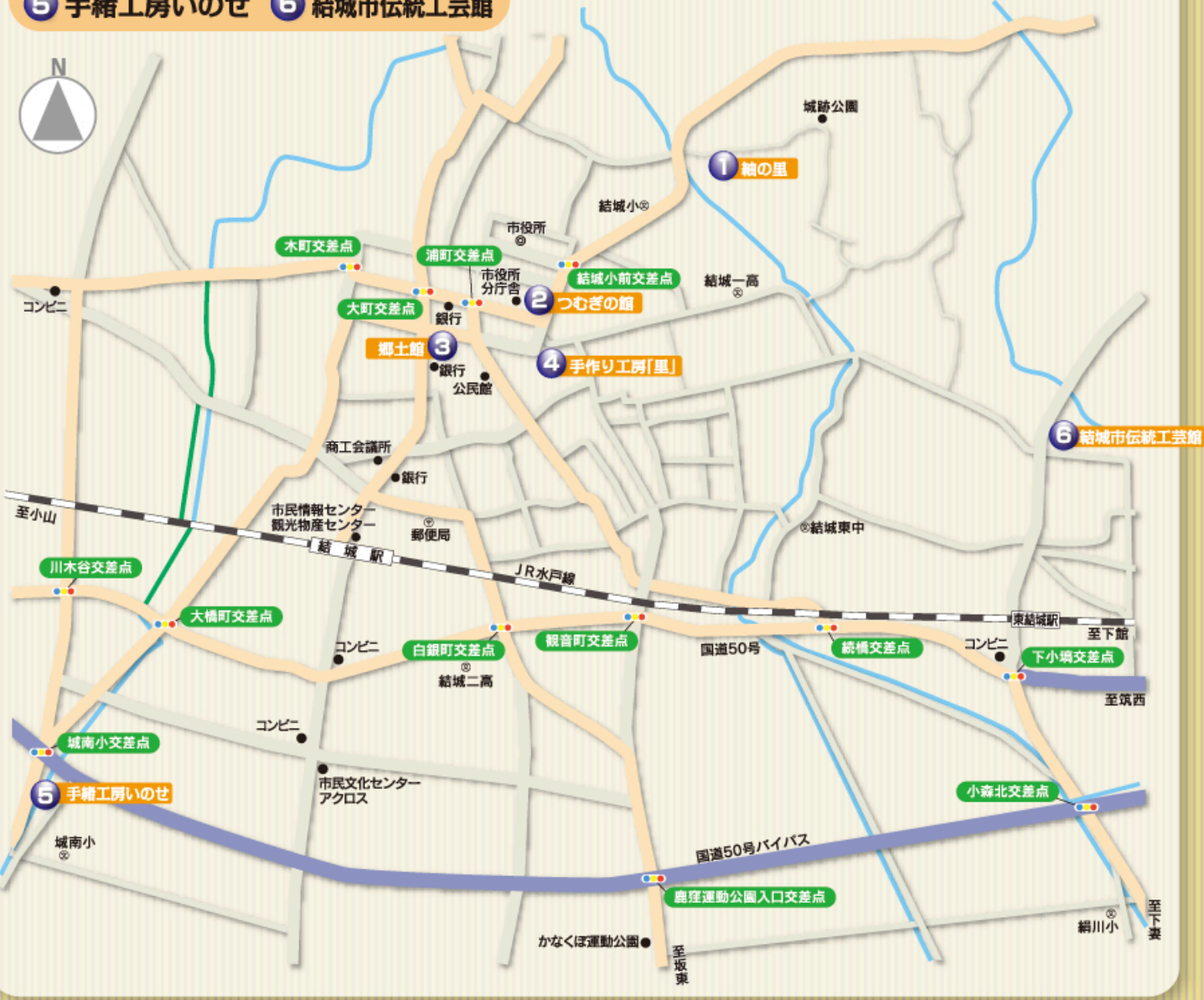
Yuki Tsumugi Guide



紬のふる里 MAP

Tsumugi Guide Map

- ① 紬の里
- ② つむぎの館
- ③ 郷土館
- ④ 手作り工房「里」
- ⑤ 手繕工房いのせ
- ⑥ 結城市伝統工芸館



鬼怒川の流れと共に生きる 本場結城紬のふる里

遠く古代、崇神天皇の御代、三野（美濃）の国から多屋命という人が茨城県の久慈郡に移り住み、そこで織物を始めました。その織物は長幡部絶と呼ばれ、結城地方に伝わり、結城紬となりました。

「絶」というのは太い生糸で織った絹粗布のことで、これが結城紬の原形だと言われています。

鬼怒川の清流をたたえる結城地方は、古代から農耕で開けていました。桑の成育に適したこともあり、養蚕が盛んで、その副産物として絶が織られるよう

なりました。絶は、常陸国の特産品として時代と共にさまざまに名を変えながら伝えられていきました。

結城氏が北関東で勢力を伸ばしていた室町時代には「常陸絶」と言われ、室町幕府及び鎌倉管領に献上され、全国的に著名な物産となっていました。

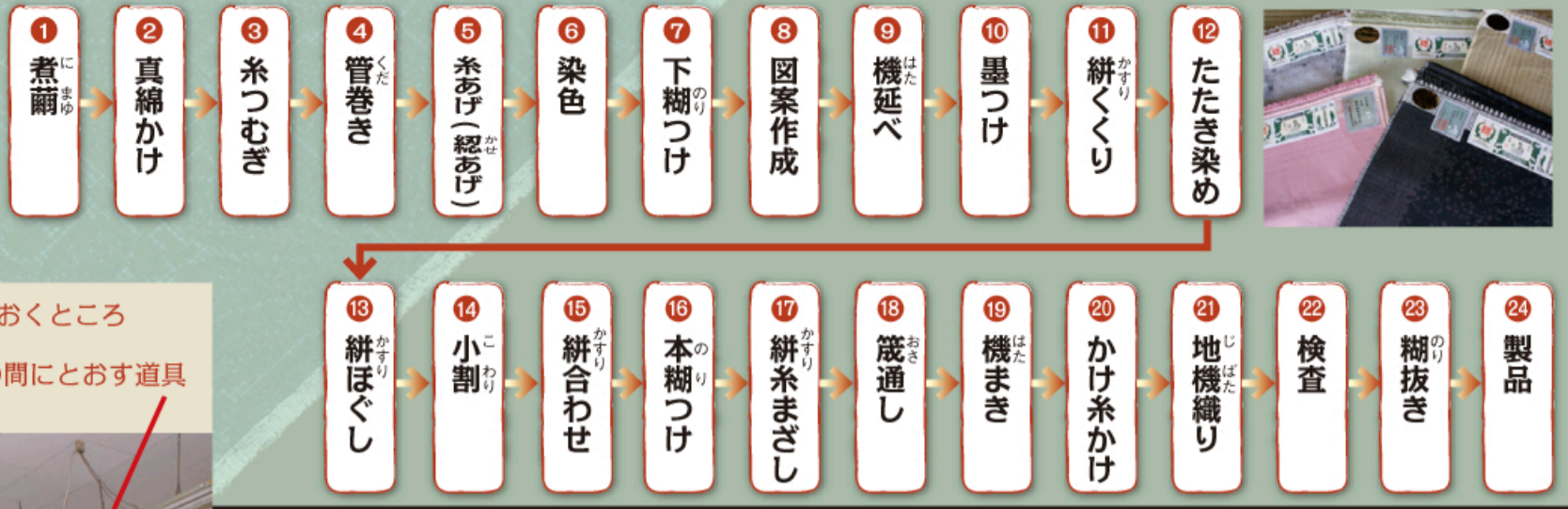
江戸時代にこの地を治めた幕府の代官・伊奈備前守忠次は、結城紬の振興・改良に努め、「結城綿紬」の名が全国に知られるようになりました。その名声は、当時の百科辞典と言われる『和漢三才図説』に、最上品の紬

として紹介されているほどです。茨城県と栃木県にまたがる鬼怒川沿いおよそ二〇キロメートルの範囲では、長幡部絶にはじまる日本最古の織物の技法を現在も守り伝えていきます。

産地として、茨城県では結城市を中心に筑西市・下妻市・八千代町、栃木県では小山市を中心に下野市・二宮町の広範囲に散在し、両県で五〇%ずつを占め、年間約五千反が生産されています。



本場結城紬の製作工程



緒巻 (おまき)…縦糸を巻き込んでおくところ

杼 (ひ)…横糸を縦糸の間におす道具

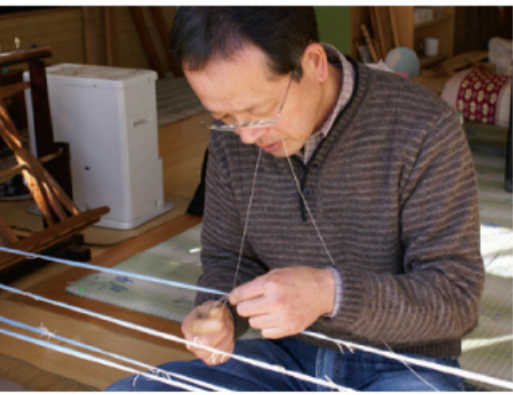


前がらみ…織った部分を巻き込むところ

箆 (おさ)…縦糸を整え、横糸を打ち込む道具

21 地機織り
結城紬は地機と呼ばれる最も原始的な織機で織り上げます。なんと一五〇〇年もの間、今日まで変わることなく使われているのです。
労力と時間を要する製法ですが、機に張る縦糸を腰当てに結びつけ、腰の力で張り具合を調整するので、手つむぎ糸の弾力あるやわらかさを生かし、織る時に無理な張力をかけません。
一方横糸は、「箆」で打ち込んだ後、杼材でできた重さ約六〇〇グラム、長さ約五センチの「杼」でさらに打ち込みます。
こうして丈夫で軽く、暖かい結城紬独特の風合いが作られるのです。
一反の反物を織り上げるのに早い人で一か月程度、細工が施された高級品になると一年以上かかるものもあります。

Weaving
The warp is fixed on the loom and weaving begins. This loom is called "Jibata"(back-strap loom). The woof is the edge of a large shuttle made of oak. It is a very tedious work and takes from one month to one year to finish one "tan" (unit) of kimono.



Kasuri tying
Following the design drawn on special paper, the correct amount of thread is measured. Then, threads are arranged for the warp and wool and black-ink marks are put on bundles of threads indicating the positions in which they will be tied, which takes generally 3 months.

※ 3・11・21 は、国の重要無形文化財に指定された工程です。

3 糸つむぎ
「つくし」という道具に真綿を巻き付け、手でつむいで「おほけ」と呼ばれる桶に糸を入れていきます。縦糸、横糸等、種類によって違った太さで、かつ太さのムラなくつむがねばなりません。普通、糸と言われるものは強い撚りをかけて丈夫に補強されるものですが、結城紬の糸は世界に類を見ない無撚糸です。この技術の習得には、鍛錬が必要で、一反分の糸量をつむぐには一〜二か月を要します。

Spinning
After being processed in oil, fukuro-mawata, or the bag-shaped floss silk, is fixed on a tool called tsukushi. The thread is then pulled by hand. This technique takes several years to learn. It takes 2-3 months to spin enough thread to weave one kimono.

Making "Mawata" or floss-silk
Five or six boiled cocoons are opened and stretched in lukewarm water, then dried in the shade. The end-product is called "fukuro mawata". The trading unit is 94 grams (45-50 pieces).



2 真綿かけ
重曹で煮た繭を一つ一つ指で広げ、五〜六枚を重ねて一枚の袋状の真綿を作ります。より細かく、強い糸を取れる真綿が求められ、俗に「綿かけ八年、糸つむぎ三年」と言うくらい、良い真綿を作るようになるには経験が必要でです。



4 管巻ぎ
おほけの糸糸を糸車で管に巻く作業です。早く回しすぎると中の糸がもつれ、遅いとたるむので適度な速度で巻かなければなりません。

ひとすじの糸に込められた深い愛情とひたむきな心

8 図案作成
明治時代の結城紬は模様や簡単なたてよこ拵でしたが、大正時代には横糸拵による絵拵、昭和初期になり亀甲などの小拵を駆使した「細工拵」が考案されました。
図案作成にあたり、これまで特殊な方眼紙を使用していましたが、近年ではパソコンでの作成が主流になりつつあります。
伝統を生かしつつも時代に合った新しいデザインを取り入れることを心がけています。



5 糸あげ(総あげ)
糸を総あげ器に巻き、輪状にする作業です。これにより糸を一定の長さに束ね、糸が絡むのを防ぎます。巻きあげ速度にはばらつきがあると糸が引きつたり、弛んでしまったため、常に一定に保つ必要があります。



9 機延べ
十数本の糸を延べ台に巻き、一反を織るのに必要な長さにするえます。数反分を一度に行う人もいます。

Dyeing
Dyes are prepared in large, unglazed pots buried in the ground. The temperature must be kept at 30C. The threads are dipped first into a pot containing a comparatively weak dye. The same treatment is repeated with sixteen pots filled with increasingly stronger fresher dyes, until they are the proper color. Recently chemical dyes have been used.



6 12 染色
結城紬独特の染色法を「たたき染め」と言い、拵くりされた糸を棒の先にしぼり、台にたたきつけて染料を染み込ませる方法です。やりすぎると拵くりしたところまで染料が染み込んでしまったり、反対に少なすぎると染めムラがでたりし、やり直しの利かない緊張が伴う作業です。

23 糊抜き
糸を着物に仕立てる前に、最後の工程である湯通しをし、織る前に付けた糊を糸の芯にわずかに残して抜き、独特のやわらかさと風合いを出します。その後の洗い張りで一層風合いが増し、着込むほどに色が冴え、体になじんでいきます。



19 機まき
箆に通した縦糸を、通した方から「緒巻」に巻いていきます。この緒巻を織機に備え付けて横糸を織っていきます。



18 箆通し
箆は、くし状になっていて、六八〇の目の間に縦糸を上糸と下糸の二本ずつ、矢筈というへらで差し込んでいきます。つむぎ糸を織機に載せるための作業です。

